

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-780	24-037	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
A burden of proof study on alcohol consumption and ischemic heart disease アルコール消費と虚血性心疾患に関する立証責任研究		
執筆者		
Carr S, Bryazka D, McLaughlin SA, Zheng P, Bahadursingh S, Aravkin AY, Hay SI, Lawlor HR, Mullany EC, Murray CJL, Nicholson SI, Rehm J, Roth GA, Sorensen RJD, Lewington S, Gakidou E.		
掲載誌		
Nat Commun. 2024 May 14;15(1):4082. doi: 10.1038/s41467-024-47632-7.		
キーワード		PMID
立証責任研究(burden of proof)、 系統的レビュー、 アルコール、 虚血性心疾患		38744810
要 旨		
<p>背景： コホート研究および症例対照研究では、低～中程度のアルコール摂取が虚血性心疾患 (IHD) リスク低下との関連が示唆されているが、バイアスを軽減するためにデザインされたメンデルランダム化 (MR) 研究の結果では、リスク低下との関連が認められない、または有害であることが示されている。これまで異なる研究デザイン間で、低～中程度のアルコール摂取が IHD リスクに対して矛盾する結果が報告されてきた。</p> <p>方法： 本研究では、既存の 95 コホート研究、27 の症例対照研究、5 つの MR 研究を対象に、メタ分析を実施するための 6 段階のフレームワークである burden of proof 手法を用い再評価した。6 段階の手順は、(1)用量反応関係を定量化した研究の取得 (2) 平均相対リスク (RR) 曲線の形状と関連する不確実性、2 次スプラインと外れ値によるバイアスに対して、観測値の 10% をトリミングした推定の実施 (3) リスク曲線をテストし、研究属性によるバイアス評価 (GRADE 基準による) (4) 研究間の異質性を定量化 (5) 小規模研究の影響、Egger の回帰とファンネル プロットを使用した出版または報告のバイアスの潜在的なリスクの特定 (6) リスク結果スコア (ROS) に変換し用量反応関係の大きさと方向を解釈 である。</p> <p>結果： コホートおよび症例対照研究の統合データでは、合計 7,059,652 人中 243,357 の IHD イベントを対象とし、低～中程度のアルコール摂取と IHD リスク低下との間に関連が示された。リスク曲線は J 字型を示し、男女ともに IHD および心筋梗塞の有病率と逆相関を示し、男性では IHD の死亡率とも逆相関を示した。コホート研究のみの評価でも、アルコール消費と IHD との逆相関が見られた。しかし、症例対照研究のみを統合した場合、アルコール消費量が 60g/日を超えると IHD リスクがわずかに増加することが示唆された。一方で、中国、韓国、イギリスの 559,708 人を対象とし、22,134 の IHD イベントを含んだ統合された MR データでは、遺伝的予測に基づくアルコール消費量と IHD リスクとの関連が認められなかった。自己申告による統合データと、遺伝的予測に基づくアルコール使用データとの間で、アルコールと IHD との関係に矛盾した結果が確認された。</p> <p>結論： 結果の相違は、さまざまな潜在的なバイアスや研究デザインの違いが、矛盾する研究結果の一因となっている可能性があり、重要な公衆衛生上の課題に対してより確証的な答えを導き出すために、MR 手法のさらなる改良や、大規模な観察研究データベースを利用した標的試験を模倣することなどが必要であることが示された。</p>		